

■【万博公園】世界最大規模のアスレチック、大阪・万博公園にオープン！！

「万博記念公園」（大阪府吹田市）に3月15日世界最大規模となるアスレチック施設「万博 BEAST」がオープンした。ドイツのアトラクション開発会社「クリスタルトウム社」が独自の技術で手がけ、4階層のアスレチックエリアと屋上展望台で構成される同施設、最大の特徴は、クライミング、サーフボードや樽、自転車を使っての綱渡りなど、120種類ものアトラクションがひとつの施設に内包され、何度も多様な遊び方に挑戦できることである。

同系列の施設では、2019年3月「滋賀農業公園・ブルーメの丘」にオープンしたアスレチック施設「アスジム」などに続く国内第3弾。今回の「万博 BEAST」はそれ以上となる最高部24メートル（ビル7～8階相当）という**世界最大規模の構造**となる。初日は新型コロナウイルスの感染拡大防止で休業する施設もある中、屋外でもあり、約550人が利用し賑わいを見せた。



▼「万博BEAST」外観



■【大阪・なんば】「なんばパークス」、リニューアル、「体験型」重視し、差別化を図る

南海電鉄が運営する商業施設、「なんばパークス」が18日にリニューアルした。今回4月下旬にオープンする店も含めて新店が23店舗、移転や階層が14店舗の合計37店舗が18日オープンし、「代々木アニメーション学院 なんば校」など専門学校も4月1日に開校する。そのほかの新規店では、“ウラなんば”の有名すし店「ときすし」も商業施設初出店、米ロサンゼルス発の「アースカフェ」やイタリアファッションブランド「オロビアンコ」など3店は大阪での1号店となる。

日本初出店となる大型遊具などが体験できる、子ども向けの遊び場「DADWEY PLAY STUDIO」は同じく18日オープン予定だったが、新型コロナウイルスの影響で延期となった。

3階にはパークスガーデンの案内と植物の販売を行う「パークスガーデン インフォメーション&ボタニカルショップ」を出店するほか、バーベキューテラス「ザ ルーフトップ バーベキュー」を8階「円形劇場」横に出店、子ども向け広場「はらっぱ広場」もクライミングウォールを新設、また7月下旬には**体験型テーマパーク「リトルおやつタウンNamba」**がオープンする。こうした体験型施設を誘致することで、競合との差別化を図る。



▲開放的な「ザ ルーフトップ バーベキュー」



▲リニューアル後3階のウッドデッキスペース



▲大阪1号店「オロブランコ」店内の様子

■【近鉄・新車両】3月14日、近鉄で17年ぶりに新型車両の「ひのとり」デビュー

近畿日本鉄道は14日、大阪なんば駅で**名鉄特急の新型車両8000系「ひのとり」**の出発式を開催した。名阪特急への新型車両投入は17年ぶりとなる。当日は規模を縮小しての開催となったが、多くの鉄道ファンが集まり、当日の席はほぼ満席となった。

「ひのとり」は大阪難波発と近鉄名古屋発を毎日各6本運行、大阪難波～近鉄名古屋間を最短2時間5分で走行する。

「ひのとり」で大阪難波～近鉄名古屋間を利用した場合、料金の合計は「プレミアム車両」が5,240円、「レギュラー車両」が4,540円。一方東海道新幹線の名古屋～新大阪間で普通車自由席を利用した場合の料金は5,940円（通常期）。つまり、

新幹線よりも安い料金で国内最高級の座席を利用できることが、「ひのとり」最大のセールスポイントといえる。大型荷物を持っている場合は、デッキ部のロッカーや荷物置きスペースが利用できる。ロッカーは鍵タイプとICカードタイプがあり、どちらも無料で使用することができる。

また、近鉄特急らしい設備としては**喫煙室を設置**したことが上げられる。近鉄特急は2月から喫煙車を廃止し、一方で喫煙室の設置を進めてきた。「ひのとり」にも喫煙室が設けられたが、地下区間である大阪難波～大阪上本町間をはじめ、大阪難波駅や近鉄名古屋駅などホームが屋内にある駅では、喫煙室を利用できない。このような喫煙室が設置されている電車は大手で現在、東海道・山陽新幹線と近鉄のみとなる。「レギュラー車両」の1部車両のデッキ部に設けられた「ベンチスペース」は、携帯電話の使用が可能な共用スペースとなっている。大阪難波～近鉄名古屋間を走る「ひのとり」は停車駅の少ないタイプの特急列車に使用される予定のため、「ベンチスペース」にいても、それほど乗降客を気にすることなく過ごすことが可能だ。



▲3月14日に行われた出発式の様子



▲カフェスポット



▲「ひのとり」レギュラー車両/プレミアム車両

